

科目名 (英)	一般教養Ⅱ (General EducationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渡邊友朗
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 曜日・時限 火曜4限
教員の略歴	2006年4月～2007年12月までフィットネスクラブに所属 仙台医健・スポーツ&こども専門学校専任教員						
授業の学習内容	問題を解き、その解説を聞き、正しい答えが導けるようになる。 (推論、図表、分割払い仕事算、速さ・距離・時間、集合、順列・組み合わせ、確率、料金の割引、代金の清算)						
到達目標	職業人・社会人に必要な論理的に考える力を高めることができる。 数学、判断推理、数的推理、図表の問題に答えることができる。						
評価方法と基準	1) 授業内評価60% 2) 筆記試験40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	推論Ⅰの問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
2	/	講義	推論Ⅱの問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
3	/	講義	図表の読み取りⅠの問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
4	/	講義	図表の読み取りⅡの問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
5	/	講義	分割払い仕事算の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
6	/	講義	速さ・距離・時間Ⅰの問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
7	/	講義	速さ・距離・時間Ⅱの問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
8	/	講義	集合の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
9	/	講義	順列・組合せⅠの問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
10	/	講義	順列・組合せⅡの問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
11	/	講義	確率の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
12	/	講義	料金の割引の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
13	/	講義	代金の清算の問題に答えられる	問題に答えられなかった点を振り返る
14	/	試験	試験	
15	/	講義	解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	情報技術Ⅱ (Literacy for Information Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	阿部 かざみ
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15時間 (1単位)	開講区分 曜日・時限	後期 水曜日 2時限目
教員の略歴	Word・Excel・PowerPointの操作方法を専門学校・PCスクール・企業研修・就職支援などで指導						
授業の学習内容	プレゼンテーションツールのPowerPointをの内容の組み立て方、作成手順、資料の探し方などを学習し、他人に自分の考えを伝える効果的な方法を学ぶ。 また、学会での発表用のみではなく、提案事項・会議用ツール・ポスター作成などに活用できる必要なパソコンスキルを学ぶ。						
到達目標	PowerPointの基本操作、プレゼンテーションの流れを自分で組み立て、見栄えのするスライドを作成し、人にわかりやすく伝わる発表技術を身に付け、資料作成・学会発表用ツールとして使用できるレベルを目指す						
評価方法と基準	作品提出40% 課題提出20% 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	スライドの基本操作やテーマを設定できる	<p>準備学習 Word・Excelで行った、グラフィックス機能、表作成、グラフ作成などができる方が望ましい</p> <p>学習課題 積み重ね授業になるので、授業終了後は復習をし、確実に次の時間に活かせることが望ましい</p>
2	/	演習	スライド内で表やグラフを活用できる	
3	/	演習	Web上の画像やグラフィックスを扱える	
4	/	演習	アニメーション効果をかけられる	
5	/	演習	既存のスライドを編集できる	
6	/	演習	プリントを参考にスライドを作成する	
7	/	演習	与えられた課題をもとにPPが作成できる	
8	/	演習	課題作品作成・提出	
9	/	演習	プレゼンテーション資料制作	
10	/	演習	プレゼンテーション資料制作	
11	/	演習	プレゼンテーション資料制作	
12	/	演習	プレゼンテーション資料制作	
13	/	演習	発表会	
14	/	演習	発表会	
15	/	演習	発表会	
準備学習 時間外学習			パソコン操作に慣れるためにも時間外にも報告書・課題などパソコンを使用して作成してほしい	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
滋慶出版社 PowerPoint2010				

科目名 (英)	トレーニング演習 (Designing Effective Training Programs)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渡会稔
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 金曜2限
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任						
授業の学習内容	トレーニングの計画・立案を理解し、トレーニング方法およびプログラムデザインを学ぶ。						
到達目標	<p>体力やその方法について説明、活用ができる。</p> <p>トレーニングの理論とその方法について説明ができる。</p> <p>トレーニングの計画とその実際について説明ができる。</p> <p>運動技術の獲得とその獲得過程について説明ができる。</p>						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)授業内評価30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	トレーニングにおける身体の生理的反応について説明できる	
2	/	演習	トレーニング計画・立案について説明できる	
3	/	演習	健康づくりとトレーニングの種類について説明できる	
4	/	演習	トレーニング理論とその方法について説明できる① (自重や身近な用具を使ったトレーニング)	
5	/	演習	トレーニング理論とその方法について説明できる② (筋力トレーニングおよびパワートレーニングの理論と実践)	
6	/	演習	トレーニング計画とその実際について説明できる① (筋力トレーニングおよびパワートレーニングの理論とプログラムデザイン)	
7	/	演習	トレーニング計画とその実際について説明できる② (ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの理論と実際)	
8	/	演習	トレーニング計画とその実際について説明できる③ (ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングのプログラムデザイン)	
9	/	演習	体力テストとその活用ができる① (サーキットトレーニングの理論と実践)	
10	/	演習	体力テストとその活用ができる② (サーキットトレーニングのプログラムデザイン)	
11	/	演習	体力テストとその活用ができる③ (傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム)	
12	/	演習	運動技術の獲得とその獲得過程について説明できる①	
13	/	演習	運動技術の獲得とその獲得過程について説明できる②	
14	/	試験	学習した内容の問題に答えられる	
15	/	演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
公認スポーツ指導者養成テキストⅠ、Ⅲ ワークブックⅠ、Ⅲ JATIトレーニング指導者テキスト				

科目名 (英)	スポーツ医学Ⅲ (Sports Medicine Ⅲ)	必修 選択	コース 必修 / 選択	年次	2	担当教員	浅沼 達二
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 火曜5限
教員の略歴	S53年岩手医科大学医学部卒業、整形外科医として開院・日本スポーツ協会スポーツドクター						
授業の学習内容	スポーツ外傷・障害についての病体、発生機序、診断方法、画像診断、徒手検査について理解し習得することが出来るようにする。また、年齢、性別によるスポーツ外傷・障害の特徴を理解する。						
到達目標	アスリートのメディカルチェックをして、適性について説明ができる。病名を把握し、それに対するアスレティック・リハビリテーションを施行できる。						
評価方法と基準	筆記によるテスト。授業中質問に答えることが出来る。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	下肢のスポーツ外傷・障害について説明できる	
2	/	講義	下肢のスポーツ外傷・障害の病について説明できる態	
3	/	講義	下肢のスポーツ外傷・障害の発生機序について説明できる	
4	/	講義	下肢のスポーツ外傷・障害の診断方法について説明できる	
5	/	講義	下肢のスポーツ外傷・障害の画像診断について説明できる	
6	/	講義	下肢のスポーツ外傷・障害の徒手検査について説明できる	
7	/	講義	重篤な外傷の病態、発生機序について説明できる	
8	/	講義	重篤な外傷について説明できる	
9	/	講義	重篤な外傷の診断方法、画像診断について説明できる	
10	/	講義	重篤な外傷の徒手検査について説明できる	
11	/	講義	年齢、性別によるスポーツ外傷・障害について説明できる	
12	/	講義	整形外科的メディカルチェックについて説明できる①	
13	/	講義	整形外科的メディカルチェックについて説明できる②	
14	/	試験	学習した内容の問題に答えられる	
15	/	講義	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	スポーツ内科学 (Applied Sports Medicine)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	松尾 兼幸
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜4限
教員の略歴	東海大学医学部卒業、開業医 日本スポーツ協会公認スポーツドクター						
授業の学習内容	スポーツ選手における内科的疾患を理解し、その対処法を身につけるとともに、感染症に対する対応策を説明ができるようになる。また、内科的メディカルチェックについても理解し、説明ができるようになる。						
到達目標	内科疾患などを理解した上で、その疾患に対し配慮ができる運動処方などを作成し、さらにその処方に基づいた指導を行った際の評価方法などを考えることができるようになる。また、内科的疾患などにおける救急時の対応方法、スポーツ医学を取り巻く社会問題などについても理解する。						
評価方法と基準	各授業時間におけるテーマに対する発表内容(出席20%)、内科疾患を理解するうえでの定期筆記試験(60%)及び自らテーマを決めて発表する研究発表会の内容(20%)などを総合的に判定する。時間外実習として、メディカルチェックとしての運動負荷試験を見学し、その目的と流れを理解する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	呼吸循環器系疾患について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
2	/	講義	消化器系疾患について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
3	/	講義	血液疾患、腎臓泌尿器系疾患について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
4	/	講義	感染症に対する対応策について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
5	/	講義	血液感染症、皮膚感染症について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
6	/	講義	ウイルス性結膜炎およびその他の感染症について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
7	/	講義	オーバートレーニング症候群について説明できる	プレゼン準備
8	/	講義	突然死について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
9	/	講義	過換気症候群について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
10	/	講義	高所、低酸素環境下、暑熱環境下、低温環境下での身体への影響について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
11	/	講義	時差および海外遠征時における諸問題について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
12	/	講義	内科的メディカルチェックおよびドーピングコントロールについて説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
13	/	講義	女性、高齢者のスポーツ医学について説明できる	プレゼン準備
14	/	試験	学習した内容の問題に答えられる	
15	/	講義・発表	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習			運動負荷試験の見学	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④健康管理とスポーツ医学				

科目名 (英)	アスレティックトレーナー論 (Introduction to Athletic Training)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	渡会 稔
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任						
授業の学習内容	アスリートのコンディショニングを統合的な視点を持ってサポートする。また、正しい知識や優れた技術を習得するための意義を理解する。ATの業務、倫理について、具体的な例を挙げながら説明していく。						
到達目標	①ATの役割と業務を理解する ②医科学スタッフとの連携、協力の重要性を理解する ③ATチームの組織運営を理解する ④ATの倫理を理解する						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)授業内評価30%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	/	講義	アスレティックトレーナーの歴史と制度を理解する		ATの制度をまとめる
2	/	講義	アスレティックトレーナーの任務と役割を理解する		ATの役割をまとめる
3	/	講義	アスレティックトレーナーの業務①を理解する		ATが行う外傷障害の予防、救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングをまとめる
4	/	講義	アスレティックトレーナーの業務②を理解する		ATが行う検査・測定評価、健康管理と組織運営、教育的指導をまとめる
5	/	講義	アスレティックトレーナーの活動①を理解する		合宿、海外遠征におけるATの活動をまとめる
6	/	講義	アスレティックトレーナーの活動②を理解する		陸上、テニスにおけるATの活動をまとめる
7	/	講義	アスレティックトレーナーの活動③を理解する		ラグビー、サッカー、冬季競技におけるATの活動をまとめる
8	/	講義	医科学スタッフの構成と役割を理解する		アスリートをサポートするスタッフの役割をまとめる
9	/	講義	スポーツドクター、コーチとの連携・協力を理解する		スポーツドクター、コーチとの連携、役割の分担をまとめる
10	/	講義	アスレティックトレーナーの組織と運営を理解する		ATチームの組織運営をまとめる
11	/	講義	競技者のコンディショニングに関するデータの管理を理解する		競技者のデータ管理の必要性、方法をまとめる
12	/	講義	アスレティックトレーナーの立場と倫理を理解する		ATの倫理をまとめる
13	/	講義	アスレティックトレーナーと法的諸問題を理解する		ATの安全配慮義務、注意義務をまとめる
14	/	試験	定期試験		
15	/	講義	まとめ		
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる		
【使用教科書・教材・参考書】 □					
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①アスレティックトレーナーの役割					

科目名 (英)	アスレティックトレーナー講座 ( Athletic Training )	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂 ひとみ
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 曜日・時限 木曜3・4限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	アスレティックパフォーマンスを維持、向上させるための外傷予防、応急処置、怪我の再発予防に備えたテーピング、ストレッチング、コンディショニングトレーニングの知識と技術を習得する。また、障害予防における応用的知識や運動プログラムの立案や指導ができる。						
到達目標	・スポーツ現場で起こりうる外傷・障害を予防するために必要なテーピング、ストレッチング、コンディショニング法などの手技の理論を理解し、実践できる。						
評価方法と基準	・筆記テスト ・実技						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	傷害予防のためのテーピングが説明できる	
2	/	演習	競技種目別テーピング①が実践できる	
3	/	演習	競技種目別テーピング②が実践できる	
4	/	演習	競技種目別テーピング③が実践できる	
5	/	演習	膝関節テーピングが実践できる	
6	/	演習	足関節テーピングが実践できる	
7	/	演習	肩鎖関節、前方脱臼などのテーピングが実践できる	
8	/	演習	応急処置テーピングが実勢できる	
9	/	演習	スポーツマッサージ①について説明・実践できる	
10	/	演習	スポーツマッサージ②について説明・実践できる	
11	/	演習	スポーツマッサージ③について説明・実践できる	
12	/	演習	RICE処置ができる	
13	/	演習	重篤な場合の判断と対応ができる	
14	/	試験	学習した内容の問題に答えられる	
15	/	演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
アスレティックトレーナー専門科目テキスト 予防とコンディショニング				

科目名 (英)	測定と評価 I (Movement Screening and Assessment I)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂 ひとみ
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 曜日・時限 木曜3・4限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	体力の構成要素、その検査、測定と評価方法を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の構成要素を理解し、その測定を実施できる。</li> <li>・新体力テストの測定方法を理解し、評価、フィードバックができる。</li> <li>・スポーツ動作を分析し、パフォーマンス向上に役立てられる。</li> <li>・統計を理解、評価し、そのデータに基づいた運動指導を行うことができる。</li> </ul>						
評価方法と基準	筆記テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	体力の構成要素について説明できる	学んだことを振り返る
2	/	演習	有酸素能力の検査目的と意義について説明できる	学んだことを振り返る
3	/	演習	有酸素能力の測定および評価について説明できる	学んだことを振り返る
4	/	演習	敏捷性の検査目的と意義について説明できる	学んだことを振り返る
5	/	演習	敏捷性の測定および評価について説明できる	学んだことを振り返る
6	/	演習	スポーツ動作の観察および分析方法について説明できる	学んだことを振り返る
7	/	演習	歩行動作による障害発生メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
8	/	演習	走行動作による障害発生メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
9	/	演習	繰り返し動作による障害メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
10	/	演習	跳動作による障害発生メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
11	/	演習	投動作による障害発生メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
12	/	演習	コンタクトスポーツによる障害発生メカニズムについて説明できる①	学んだことを振り返る
13	/	演習	コンタクトスポーツによる障害発生メカニズムについて説明できる②	学んだことを振り返る
14	/	試験	学習した内容の問題に答えられる	
15	/	演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
アスレティックトレーナー専門科目テキスト 検査・測定と評価				



科目名 (英)	測定と評価Ⅱ (Movement Screening and Assessment Ⅱ)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂ひとみ
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 曜日・時間 木曜3・4限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	アスレティックトレーナーにとって必要とされる評価法についての意義と考え方を説明できる。また、評価による問題点の抽出から問題改善へのプロセスを理解し、説明ができる。更に、評価を進める上で必要とされる検査測定手技について実践ができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>測定、評価の意義、目的を理解し、実践できる。</li> <li>身体機能の測定、評価を行い、得られたデータを分析できる。</li> <li>身体機能の測定、評価で得られたデータをフィードバックできる。</li> </ul>						
評価方法と基準	筆記テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	評価の目的、意義および役割について説明できる	学んだことを振り返る
2	/	演習	機能評価方法について説明できる	学んだことを振り返る
3	/	演習	検査方法Ⅰ(アライメントテスト)について実践できる	学んだことを振り返る
4	/	演習	検査方法Ⅱ(関節可動域テスト)について実践できる	学んだことを振り返る
5	/	演習	検査方法Ⅲ(関節弛緩性テストⅠ)について実践できる	学んだことを振り返る
6	/	演習	検査方法Ⅳ(関節弛緩性テストⅡ)について実践できる	学んだことを振り返る
7	/	演習	検査方法Ⅴ(タイトネステストⅠ)について実践できる	学んだことを振り返る
8	/	演習	検査方法Ⅵ(タイトネステストⅡ)について実践できる	学んだことを振り返る
9	/	演習	検査方法Ⅶ(徒手筋力テストⅠ)について実践できる	学んだことを振り返る
10	/	演習	検査方法Ⅷ(徒手筋力テストⅡ)について実践できる	学んだことを振り返る
11	/	演習	検査方法Ⅸ(身体組成Ⅰ)について実践できる	学んだことを振り返る
12	/	演習	検査方法Ⅹ(身体組成Ⅱ)について実践できる	学んだことを振り返る
13	/	演習	機能評価に基づくコンディショニングの目標設定とプログラム立案ができる	学んだことを振り返る
14	/	試験	学習した内容の問題に答えられる	
15	/	演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
アスレティックトレーナー専門科目テキスト 検査・測定と評価				

科目名 (英)	コンディショニング理論演習 I (Seminar of Strength and Conditioning I)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂 ひとみ
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜2限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI							
授業の学習内容	コンディショニングの方法および目的を理解し、身体的、環境的、心因的因子を理解する。また、競技特性、外傷予防について学び、スポーツ現場でその知識を還元すること。							
到達目標	コンディショニングの方法および目的を理解し、身体的、環境的、心因的因子を説明できる。また、競技特性、外傷予防について説明ができる。							
評価方法と基準	筆記テスト							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	コンディショニングの目的について説明できる	
2	/	演習	傷害発生要因、身体・環境・心因的因子について説明できる	
3	/	演習	コンディショニングの指標及び評価法、フィットネス・フィールドテストについて説明できる	
4	/	演習	コンディショニングの指標及び評価法、身体・環境・心因的因子について説明できる	
5	/	演習	コンディショニングを意識したトレーニング計画の立案及び設計について説明できる	
6	/	演習	身体・環境・心因的因子から傷害発生に関する環境因子について説明できる	
7	/	演習	ウォーミングアップ・クーリングダウン意義・目的・方法を説明・実践できる	
8	/	演習	コンディショニングトレーニングについて説明・実践できる	
9	/	演習	スプリント、エンデュランス(サーキットトレーニングを含む)について説明・実践できる	
10	/	演習	冬季・採点競技系の傷害・環境を理解し、対策・改善について説明できる	
11	/	演習	格闘技・記録系競技の傷害・環境を理解し、対策・改善について説明できる	
12	/	演習	球技系競技の傷害・環境を理解し、対策・改善について説明できる①	
13	/	演習	球技系競技の傷害・環境を理解し、対策・改善について説明できる②	
14	/	試験	学習した内容の問題に答えられる	
15	/	演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	コンディショニング理論演習Ⅱ (Seminar of Strength and ConditioningⅡ)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂 ひとみ
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 曜日・時限 木曜3・4限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI							
授業の学習内容	マシン、フリーウェイト、といったレジスタンストレーニング方法や正しい運動のフォームを理解し、人に説明や指導をすることができる。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニング方法を習得する目的を理解する。</li> <li>・マシン、フリーウェイトを使ったレジスタンストレーニングの方法や正しい運動のフォームを理解し、指導できる。</li> </ul>							
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記テスト</li> <li>・実技</li> </ul>							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	トレーニング方法を習得する目的と目標を説明できる	学んだことを振り返る
2	/	演習	自体重およびチューブを利用した、トレーニングが実践できる①	学んだことを振り返る
3	/	演習	自体重およびチューブを利用した、トレーニングが実践できる②	学んだことを振り返る
4	/	演習	自体重およびチューブを利用した、トレーニングが実践できる③	学んだことを振り返る
5	/	演習	自体重およびチューブを利用した、トレーニングが実践できる④	学んだことを振り返る
6	/	演習	フリーウェイトを活用した各上肢および下肢の種目が説明・実践できる①	学んだことを振り返る
7	/	演習	フリーウェイトを活用した各上肢および下肢の種目が説明・実践できる②	学んだことを振り返る
8	/	演習	フリーウェイトを活用した各上肢および下肢の種目が説明・実践できる③	学んだことを振り返る
9	/	演習	フリーウェイトを活用した各上肢および下肢の種目が説明・実践できる④	学んだことを振り返る
10	/	演習	マシンを活用した上肢および下肢の種目が説明・実践できる①	学んだことを振り返る
11	/	演習	マシンを活用した上肢および下肢の種目が説明・実践できる②	学んだことを振り返る
12	/	演習	各トレーニング種目が説明・指導できる①	学んだことを振り返る
13	/	演習	各トレーニング種目が説明・指導できる②	学んだことを振り返る
14	/	試験	学習した内容の問題に答えられる	
15	/	演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ アスレティックトレーナー専門科目テキスト 予防とコンディショニング				

科目名 (英)	アスレティックリハビリテーションⅡ (Athletic Rehabilitation Ⅱ)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	渡会 稔
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 曜日・時限 水曜3, 4限
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育 学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任						
授業の学習内 容	子どもから高齢者の健康維持の増進や、競技者の競技復帰において基盤となるアスレティックリハビリテーショ ン、各療法の知識、技術を習得する。傷害別のアスレティックリハビリテーションプログラムの計画、立案、実践の 方法を理解する。						
到達目標	①アスレティックリハビリテーションに必要な知識、技術を理解する ②傷害別アスレティックリハビリテーションプログラムの計画、立案ができるようになる ③傷害別アスレティックリハビリテーションプログラムを実践できるようになる						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)授業内評価30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	体幹部の解剖学的運動を理解する	体幹部の機能解剖をまとめる
2	/	演習	体幹部のアスレティックリハビリテーションを理解する	体幹部のアスレティックリハビリテーションをまとめる
3	/	演習	体幹部の関節可動域測定を理解する	体幹部の関節可動域測定の方法をまとめる
4	/	演習	体幹部のMMTを理解する	体幹部のMMTをまとめる
5	/	演習	まとめ	
6	/	演習	頸部の解剖学的運動を理解する	頸部の機能解剖をまとめる
7	/	演習	頸部のアスレティックリハビリテーションを理解する	頸部のアスレティックリハビリテーションをまとめる
8	/	演習	頸部の関節可動域測定を理解する	頸部の関節可動域測定の方法をまとめる
9	/	演習	頸部のMMTを理解する	頸部のMMTをまとめる
10	/	演習	まとめ	
11	/	演習	傷害別アスレティックリハビリテーションの計画立案①を理解する	体幹のアスレティックリハビリテーションのプ ログラミングと実践をまとめる
12	/	演習	傷害別アスレティックリハビリテーションの計画立案②を理解する	上肢のアスレティックリハビリテーションのプ ログラミングと実践をまとめる
13	/	演習	傷害別アスレティックリハビリテーションの計画立案③を理解する	下肢のアスレティックリハビリテーションのプ ログラミングと実践をまとめる
14	/	試験	定期試験	
15	/	演習	まとめ	
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦アスレティックリハビリテーション				

科目名 (英)	アスレティックリハビリテーションⅢ ( Athletic Rehabilitation Ⅲ )	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	渡会 稔
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 曜日・時限 水曜3, 4限
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育 学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任						
授業の学習内 容	子どもから高齢者の健康維持の増進や、競技者の競技復帰において基盤となるアスレティックリハビリテーショ ン、各療法の知識、技術を習得する。種目運動別のアスレティックリハビリテーションプログラムの計画、立案、実 践の方法を理解する。						
到達目標	①アスレティックリハビリテーションに必要な知識、技術を理解する ②種目運動別アスレティックリハビリテーションプログラムの計画、立案ができるようになる ③種目運動別アスレティックリハビリテーションプログラムを実践できるようになる						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)授業内評価30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	受傷直後、急性期の対応を理解する	外傷の急性期の対応をまとめる
2	/	演習	亜急性期のアスレティックリハビリテーションを理解 する	亜急性期のアスレティックリハビリテーショ ンをまとめる
3	/	演習	慢性期初期のアスレティックリハビリテーショ ンを理解する	慢性期初期のアスレティックリハビリテーショ ンをまとめる
4	/	演習	慢性期中期のアスレティックリハビリテーショ ンを理解する	慢性期中期のアスレティックリハビリテーショ ンをまとめる
5	/	演習	慢性期後期のアスレティックリハビリテーショ ンを理解する	慢性期後期のアスレティックリハビリテーショ ンをまとめる
6	/	演習	機能回復期のアスレティックリハビリテーショ ンを理解する	機能回復期のアスレティックリハビリテーショ ンをまとめる
7	/	演習	オーバーユースによる傷害と対処を理解する	オーバーユースによる傷害と対処をまとめる
8	/	演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実 例①を理解する	陸上、水泳のアスレティックリハビリテーショ ンの実例をまとめる
9	/	演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実 例②	サッカー、バスケットボールのアスレティックリ ハビリテーションの実例をまとめる
10	/	演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実 例③	バレーボール、ハンドボールのアスレティック リハビリテーションの実例をまとめる
11	/	演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実 例④	野球、ラグビーのアスレティックリハビリテー ションの実例をまとめる
12	/	演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実 例⑤	格闘技、体操のアスレティックリハビリテー ションの実例をまとめる
13	/	演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実 例⑥	スキー、スケートのアスレティックリハビリテー ションの実例をまとめる
14	/	試験	定期試験	
15	/	演習	まとめ	
準備学習 時間外学習		授業の復習として各講義のポイントをまとめる		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦アスレティックリハビリテーション				

科目名 (英)	救急処置法Ⅱ (Emergency Treatment and Lifesavin)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂ひとみ
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	救急処置の目的と意義を理解し、説明ができる。 更に基礎的な救急処置を習得し、アスレティックトレーナーとしての役割を理解し、説明ができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急処置の基本的知識を理解する。</li> <li>スポーツ現場における傷害に対する救急処置を理解し、実施できる。</li> <li>現場における救急体制の重要性と計画性を理解する。</li> </ul>						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆記テスト 50%</li> <li>実技 50%</li> </ul>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	救急処置基礎およびスポーツ現場における救急処置の意義、目的について説明できる	学んだことを振り返る
2	/	演習	救急医療の現状の理解、重要性について説明できる	学んだことを振り返る
3	/	演習	怪我の評価と観察の重要性について説明できる	学んだことを振り返る
4	/	演習	外傷への応急処置について説明できる	学んだことを振り返る
5	/	演習	緊急時の救命処置について説明できる①	学んだことを振り返る
6	/	演習	緊急時の救命処置について説明できる②	学んだことを振り返る
7	/	演習	心肺蘇生法・固定法の実践について説明できる①	学んだことを振り返る
8	/	演習	心肺蘇生法・固定法の実践について説明できる②	学んだことを振り返る
9	/	演習	心肺蘇生法・固定法の実践について説明できる③	学んだことを振り返る
10	/	演習	心肺蘇生法・固定法の実践について説明できる④	学んだことを振り返る
11	/	演習	心肺蘇生法・固定法の実践について説明できる⑤	学んだことを振り返る
12	/	演習	内科的疾患への救急処置について説明できる	学んだことを振り返る
13	/	演習	現場における救急体制について説明できる	学んだことを振り返る
14	/	試験	学習した内容の問題に答えられる	
15	/	演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ アスレティックトレーナー専門科目テキスト 応急処置				



科目名 (英)	現場実習 (Internship program)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	渡会 稔
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	集中
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育 学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任						
授業の学習 内容	① 公認ATのもとアスレティックリハビリテーションプログラムの指導法を理解する ② 公認ATのもとATの業務全般を理解する						
到達目標	① 公認ATのもとアスレティックリハビリテーションプログラムを指導できるようになる ② 公認ATのもとATの業務全般を指導できるようになる						
評価方法と基準	実習内容、学習内容を実習報告書に記録する。実習報告書提出者に単位を認定する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	足関節におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
2	/	実習	膝関節におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
3	/	実習	股関節におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
4	/	実習	腰部におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
5	/	実習	肩関節におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
6	/	実習	肘関節におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
7	/	実習	手関節におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
8	/	実習	頸部におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
9	/	実習	バスケットボールの外傷におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
10	/	実習	バスケットボールの障害におけるアスレティックリハビリテーションの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
11	/	実習	ウォーミングアップの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
12	/	実習	クールダウンの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
13	/	実習	栄養面からのコンディショニングの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
14	/	実習	疲労回復を目的としたコンディショニングの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
15	/	実習	ウェイトトレーニングの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
準備学習 時間外学習			復習として実習内容のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨				



科目名 (英)	現場実習	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	渡会 稔
	(Internship program)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分	集中
学科・コース	スポーツ科学科						
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育 学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任						
授業の学習内容	① 公認ATのもとアスレティックリハビリテーションプログラムの指導法を理解する ② 公認ATのもとATの業務全般を理解する						
到達目標	① 公認ATのもとアスレティックリハビリテーションプログラムを指導できるようになる ② 公認ATのもとATの業務全般を指導できるようになる						
評価方法と基準	実習内容、学習内容を実習報告書に記録する。実習報告書提出者に単位を認定する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	アジリティートレーニングの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
2	/	実習	代謝系トレーニングの指導法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
3	/	実習	メディカルチェックの実施方法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
4	/	実習	フィットネスチェックの実施方法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
5	/	実習	フィールドテストの実施方法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
6	/	実習	身体組成測定の実施方法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
7	/	実習	柔軟性テストの実施方法を理解する	学んだことを報告書にまとめる
8	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションのプログラム作成を理解する①	学んだことを報告書にまとめる
9	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションのプログラム作成を理解する②	学んだことを報告書にまとめる
10	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションのプログラム作成を理解する③	学んだことを報告書にまとめる
11	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションのプログラム作成を理解する④	学んだことを報告書にまとめる
12	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションのプログラム作成を理解する⑤	学んだことを報告書にまとめる
13	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションのプログラム作成を理解する⑥	学んだことを報告書にまとめる
14	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションのプログラム作成を理解する⑦	学んだことを報告書にまとめる
15	/	実習	各競技におけるアスレティックリハビリテーションのプログラム作成を理解する⑧	学んだことを報告書にまとめる
準備学習 時間外学習			復習として実習内容のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨				

科目名 (英)	ジュニアスポーツ指導員 (Junior Sports Instructor)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	渡会 稔
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任						
授業の学習内容	あそびの要素を取り入れた基本動作習得のため指導法を身につける。 ジュニアスポーツ指導員の資格取得を目指す者は、本科目を必修とする。 公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキストを使用する。						
到達目標	日本スポーツ協会「ジュニアスポーツ指導員」の資格試験で合格ができる知識がある。 ジュニアスポーツ動員の役割と指導の在り方について説明ができる。 ジュニア期に応じた遊び・スポーツについて指導プログラムが作成でき、指導ができる。						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)授業内評価30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	概論 ～ジュニア期のスポーツ指導(コーチング)の在り方～	
2	/	演習	コーチング ～ジュニアスポーツ指導員の役割と指導の在り方～	
3	/	演習	体力、動きの発達 ～ジュニア期の体格の発育理解と運動能力の変化及び発達段階に応じた効果的な運動指導～	
4	/	演習	体力、動きの発達 ～ジュニア期の体格の発育理解と運動能力の変化及び発達段階に応じた効果的な運動指導～	
5	/	演習	スポーツ医学 ～子どもの身体の発育・発達に応じた変化や評価法及びジュニア期に発生する外傷・障害と基礎疾患を有する子どもへの運動指導～	
6	/	演習	女性とスポーツ ～女性の身体的・体力的特徴・発育年齢に起こる諸問題の原因及び症状を理解し、月経に関する基礎知識の理解と諸問題への対応～	
7	/	演習	運動遊び・スポーツ① ～アイスブレイクの必要性和具体的な指導方法及びリズム体操～	
8	/	演習	運動遊び・スポーツ② ～用具を使った運動遊び～	
9	/	演習	運動遊び・スポーツ③ ～コーディネーショントレーニング～	
10	/	演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例③対象者に合わせた指導プログラム作り① ～対象・運動強度の設定と運動内容の調整～	
11	/	演習	対象者に合わせた指導プログラム作り② ～運動強度の設定と運動内容の調整～	
12	/	演習	指導プログラムのプレゼンテーション	
13	/	演習	指導プログラムの実践	
14	/	試験	対象者に合わせた指導プログラムの評価	
15	/	演習	まとめ	
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	レクリエーション演習 (Instructional Methods of Recreation)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	伊藤 枝里奈
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期・後期・通 年・集中等
教員の略歴	H18年仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士課程修了、平成20年より平成28年までこどもの運動指導に従事						
授業の学習内容	将来スポーツに携わる人材として、自分自身の体力の維持増進を目標とし、生涯を通じて継続的に、かつ協力的に運動を実践するための知識や態度を養うことによって、明るく豊かで、心身ともに健康な生活を営むための知識を実践交えて学ぶ。また、レクリエーションの概念を理解し、人とのコミュニケーションの取り方や初対面の人との関わり方などの基礎を体験を踏まえ学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイクとは何かを学ぶ。</li> <li>・ゲームプログラムの組み方を学ぶ。</li> <li>・スムーズにコミュニケーションを取るための言葉がけの仕方を学ぶ。</li> <li>・指導案の作成の仕方を学ぶ。</li> </ul>						
評価方法と基準	出席(20%)、レポート(50%)、指導案(10%)、実技試験(20%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	オリエンテーション ～レクリエーションとは何か～ について説明できる	
2	/	演習	アイスブレイクが実践できる①	レクリエーションの流れについて理解する
3	/	演習	アイスブレイクが実践できる②	ことばがけの仕方について理解する
4	/	演習	アイスブレイクが実践できる③	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションについて理解する
5	/	演習	アイスブレイクが実践できる④	ゲームの展開の仕方について理解する
6	/	演習	アイスブレイクが実践できる⑤	戦略ゲームについて理解する
7	/	演習	アイスブレイクが実践できる⑥	グループ活動について理解する
8	/	演習	ニュースポーツが実践できる①	体験を踏まえ効果を理解する
9	/	演習	ニュースポーツが実践できる②	体験を踏まえ効果を理解する
10	/	演習	ニュースポーツが実践できる③	体験を踏まえ効果を理解する
11	/	演習	野外活動の指導ができる①	体験を踏まえ効果を理解する
12	/	演習	野外活動の指導ができる②	体験を踏まえ効果を理解する
13	/	演習	レクリエーションゲーム指導案が作成できる①	指導案の作成方法を理解する
14	/	演習	レクリエーションゲーム指導案が作成できる②	指導案の作成方法を理解する
15	/	試験	実技テスト	指導案の通りに実践できるか体験する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	総合型地域スポーツクラブ演習 (Internship Program)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	渡会 稔
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	集中
教員の略歴	1999年日本スポーツ協会アスレティックトレーナー取得 2009年～2014年仙台大学 体育学部 体育学科 助教 プロバスケットボールチームトレーナーを歴任							
授業の学習内容	指導計画書を作成し、その計画書に基づきプレゼンテーションを行なう。							
到達目標	総合型地域スポーツクラブで指導の計画および実践ができる。 また、その活動についてワード・パワーポイントを使用し報告会ができる。							
評価方法と基準	1)発表 2)提出物							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	オリエンテーション キッツスポーツクラブ総合実習の目的、予定、 クラブへの挨拶について	
2	/	演習	キッツスポーツクラブ総合実習の心得 活動中に発生する怪我の予防と安全管理、報告、連絡、相談の重要性	
3	/	演習	キッツスポーツクラブ総合実習の指導計画作成 実習日誌(報告書)の書き方、	
4	/	演習	指導計画Ⅰ(走る・跳ぶ遊びを中心に)	
5	/	演習	指導計画Ⅱ(投げる・回る遊びを中心に)	
6	/	演習	指導計画Ⅲ(サッカー・ボール遊びを中心に)	
7	/	演習	指導計画Ⅳ(一人や二人でできる遊びを中心に)	
8	/	演習	指導計画Ⅴ(集団・表現遊びを中心に)	
9	/	演習	コーディネーション指導Ⅰ (用具を使わないもの、マット運動、平均台、跳び箱、鉄棒、ボール)	
10	/	演習	コーディネーション指導Ⅱ (身体の定位・反応能力、バランス・リズム感覚)	
11	/	演習	コーディネーション指導Ⅲ (分化・変換能力)	
12	/	演習	演習(指導)の振り返り 御礼状の書き方	
13	/	演習	実習報告会準備 パワーポイント、抄録作成	
14	/	試験	実習報告会(1人6分、質疑応答2分)	
15	/	演習	まとめ 感想レポート作成	
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	スタジオプログラム (Studio Program)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	金森千穂
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	JAF A-GFIエグゼクティブ シナプソロジーアドバンス教育トレーナー 介護予防運動指導員 バランスコーディネーション教育トレーナー 健康運動実践指導者						
授業の学習内容	グループエクササイズ指導の定義や指導者の役割が説明できる。 グループエクササイズを指導する上で必要な準備ができる。また、指導の循環や、参加者のことを考えた指導が実践できる。						
到達目標	グループエクササイズができるようになるためのスタジオプログラムの基礎を学習する。						
評価方法と基準	1) 筆記試験30% 2) 実技試験30% 3) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	グループエクササイズ指導の定義と指導者の役割 グループエクササイズ指導とは？ インストラクターの役割と健康・体力づくり運動の条件	学んだことを振り返る
2	/	演習	グループエクササイズ指導の準備① グループエクササイズのプログラム作成における留意事項	学んだことを振り返る
3	/	演習	グループエクササイズ指導の準備② 動きの事前練習、音楽の準備、用具の準備、環境の準備、指導前の準備	学んだことを振り返る
4	/	演習	グループエクササイズ指導の実際① 指導の循環、コミュニケーションスキル	学んだことを振り返る
5	/	演習	グループエクササイズ指導の実際② 動きの学習段階、指導者の向きと立ち位置	学んだことを振り返る
6	/	演習	グループエクササイズ指導の実際③ ウォームアップとクールダウン	学んだことを振り返る
7	/	演習	グループエクササイズ指導の実際④ ウォームアップとクールダウン、安全管理	学んだことを振り返る
8	/	演習	指導者の動き	学んだことを振り返る
9	/	演習	グループエクササイズのクラス運営① ホスピタリティとリーダーシップ	学んだことを振り返る
10	/	演習	グループエクササイズのクラス運営② グループダイナミクス	学んだことを振り返る
11	/	演習	グループエクササイズのクラス運営③ 運動への動機づけ	学んだことを振り返る
12	/	演習	グループエクササイズのクラス運営④ 自己点検・評価(振り返りと課題)	学んだことを振り返る
13	/	演習	グループエクササイズフィットネスインストラクターのプロになるための心得	学んだことを振り返る
14	/	試験	試験	
15	/	演習	まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
グループエクササイズ指導理論				

科目名 (英)	ADI養成講座 (Class for ADI Test)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	岡本真紀子
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 月曜4限
教員の略歴	エアロビクスインストラクターとしてフィットネスクラブ等で活躍						
授業の学習内容	エアロビックダンスエクササイズインストラクターの資格について説明できる。 資格試験に求められる課題が答えられる。						
到達目標	参加者の健康レベルの維持・向上を目指し、集団での運動指導ができる。 エアロビックダンスエクササイズインストラクターの資格取得する。 音楽を使った有酸素運動の指導ができる。						
評価方法と基準	1) 筆記試験30% 2) 実技試験30% 3) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	ADBI試験の概要説明 「課題Ⅰ」規定動作 実践	学んだことを振り返る
2	/	演習	「課題Ⅰ」規定動作 実践とドリル(良い動きとは…姿勢と動作表現) 「課題Ⅱ」指導実践 (適切な姿勢と動作について)	学んだことを振り返る
3	/	演習	「課題Ⅰ」規定動作 実践練習(動作表現と明確な動き) 「課題Ⅱ」指導実践 (聞き取りやすい話し方)	学んだことを振り返る
4	/	演習	「課題Ⅰ」規定動作 (安全性に関する注意)指示のタイミング 「課題Ⅱ」指導実践 ドリル	学んだことを振り返る
5	/	演習	「課題Ⅰ・Ⅱ」 総合練習1 (試験の基準を目安にする)	学んだことを振り返る
6	/	演習	「課題Ⅰ・Ⅱ」 総合練習2	学んだことを振り返る
7	/	演習	ADI 試験の概要説明 運動強度の考え方(強度の要因を理解する)	学んだことを振り返る
8	/	演習	動きのつなぎについて(下肢、上肢)	学んだことを振り返る
9	/	演習	安全性に配慮したプログラムの考え方、コンビネーション、リニアのサンプルレッスン受講	学んだことを振り返る
10	/	演習	コンビネーションでの運動強度変換(強度を上げる、下げる)	学んだことを振り返る
11	/	演習	リニアでの運動強度変換(強度を上げる、下げる)	学んだことを振り返る
12	/	演習	指導の循環を使った指導練習①	学んだことを振り返る
13	/	演習	指導の循環を使った指導練習②	学んだことを振り返る
14	/	演習	ADI 試験対策 総合練習1	
15	/	演習	ADI 試験対策 総合練習2	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
エアロビックダンスエクササイズ指導理論				



科目名 (英)	AQWI・AQDI養成講座 (Class for AQWI・AQDI Test)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	金森千穂
	学科・コース	スポーツ科学科		授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	JAF A-GFIエグゼクティブ シナプソロジーアドバンス教育トレーナー 介護予防運動指導員 バランスコーディネーション教育トレーナー 健康運動実践指導者							
授業の学習内容	水中ウォーキングエクササイズインストラクター、アクアダンスエクササイズインストラクターの資格について説明できる。 資格試験に求められる課題が答えられる。							
到達目標	参加者の健康レベルの維持・向上を目指し、集団での運動指導ができる。 水中ウォーキングエクササイズインストラクター、アクアダンスエクササイズインストラクターの資格取得する。 水中での安全な有酸素運動の指導ができる。							
評価方法と基準	1) 筆記試験30% 2) 実技試験30% 3) 授業内評価40%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	AQWI試験概要	
2	/	演習	AQWBI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
3	/	演習	AQWI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
4	/	演習	実践	学んだことを練習しておく
5	/	演習	AQDI試験概要	学んだことを練習しておく
6	/	演習	AQDBI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
7	/	演習	AQDI 課題	学んだことを練習しておく
8	/	演習	実践	学んだことを練習しておく
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	REI・SEI養成講座 (Class for REI・SEI Test)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	金森千穂
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	JAF A-GFIエグゼミナー シナプソロジーアドバンス教育トレーナー 介護予防運動指導員 バランスコーディネーション教育トレーナー 健康運動実践指導者						
授業の学習内容	レジスタンスエクササイズインストラクター、ストレッチエクササイズインストラクターの資格について説明できる。 資格試験に求められる課題が答えられる。						
到達目標	参加者の健康レベルの維持・向上を目指し、集団での運動指導ができる。 レジスタンスエクササイズインストラクター、ストレッチエクササイズインストラクターの資格取得する。 陸上での安全な運動の指導ができる。						
評価方法と基準	1) 筆記試験30% 2) 実技試験30% 3) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	REI試験概要	
2	/	演習	REBI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
3	/	演習	REI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
4	/	演習	実践	学んだことを練習しておく
5	/	演習	SEI試験概要	学んだことを練習しておく
6	/	演習	SEBI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
7	/	演習	SEI 課題Ⅰ、課題Ⅱ	学んだことを練習しておく
8	/	演習	実践	学んだことを練習しておく
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
レジスタンスエクササイズ指導理論、ストレッチエクササイズ指導理論				



科目名 (英)	アスリートフードマイスター講座 (Athlete Food Meister)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	株式会社アスリート フードマイスター
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	集中
教員の略歴	株式会社アスリートフードマイスター講師							
授業の学習内容	アスリートに必要な食事に対する知識が説明でき、その知識を競技選手に実践指導ができる。							
到達目標	アスリートフードマイスター3級の資格取得を通して、アスリートをよく深く理解し、食のサポートができるようになる。							
評価方法と基準	アスリートフードマイスター3級の認定者に単位を認定する。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	競技者に対する食事の指導ができる①	学んだことを振り返る
2	/	演習	競技者に対する食事の指導ができる②	学んだことを振り返る
3	/	演習	競技者に対する食事の指導ができる③	学んだことを振り返る
4	/	講義	アスリートの食事のあり方を説明できる	学んだことを振り返る
5	/	講義	アスリートに必要な食材の選び方を説明できる	学んだことを振り返る
6	/	講義	食事計画を立てることができる	学んだことを振り返る
7	/	講義	対象者やタイミングに合わせた献立が作成できる	学んだことを振り返る
8	/	試験	試験	学んだことを振り返る
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				



科目名 (英)	幼児体育指導者検定2級 (Infant Physical Education Leaders Level2 Course)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	日本幼少年体育協会
	学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	日本幼少年体育協会指導員						
授業の学習内容	幼児体育指導者に必要な知識が説明できる。 マット運動の手本や補助ができる。 とび箱の手本や補助ができる。 リズム体操の手本や指導ができる。 なわとびの手本や指導ができる。						
到達目標	幼児体育指導者検定2級の取得を通して、子どもに対して、体育や運動遊びを「たのしく」「わかりやすく」「安全に」指導ができる。						
評価方法と基準	資格取得60% 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	幼児体育指導者に必要な知識が説明できる①	学んだことを振り返る
2	/	講義	幼児体育指導者に必要な知識が説明できる②	学んだことを振り返る
3	/	講義	幼児体育が実践指導できる① マット・とび箱・リズム体操・なわとび	学んだことを反復する
4	/	演習	幼児体育が実践指導できる② マット・とび箱・リズム体操・なわとび	学んだことを反復する
5	/	演習	幼児体育が実践指導できる③ マット・とび箱・リズム体操・なわとび	学んだことを反復する
6	/	演習	幼児体育が実践指導できる④ マット・とび箱・リズム体操・なわとび	学んだことを反復する
7	/	試験	試験	
8	/	試験	試験	
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
幼児体育指導者検定公式テキスト2級,3級				



科目名 (英)	障がい者スポーツ初級指導員講座 (Training for the Disabilities)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	佐藤一樹
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 月曜1・2限
学科・コース	スポーツ科学科						
教員の略歴	上級障がい者スポーツ指導員、障がい者フライングディスク第1種審判員						
授業の学習内容	「初級障がい者スポーツ指導員」養成講習会での講習科目に沿い、障がい者福祉施策とと障がい者スポーツ、ボランティア論、障がい者スポーツの意義と理念、安全管理、障がいの理論とスポーツ、公認障がい者スポーツ指導者制度、全国障害者スポーツ大会の概要、障がいに応じたスポーツの工夫・実施、障がい者との交流について学習し、説明・実践ができるようになる。						
到達目標	「初級障がい者スポーツ指導員」として認定される。 障がい者の基本内容を理解し、スポーツの導入に必要な基本的知識・技術を身につけ、実践にあたっては、健康や安全管理を重視したしどろができる。さらに、地域の大会や行事に参加すると共に、指導員組織の事業にも積極的に参加するなど地域の障がい者スポーツの振興を支えることができる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト30% 2) 授業内評価30% 3) 実技演習30% 4) ボランティア意欲10% ※その他、障がいに応じたスポーツ・レクリエーションの工夫について加味します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	障がい者の福祉施策と障がい者スポーツについて説明できる	学んだことを振り返る
2	/	演習	ボランティア論について説明できる ～視覚障害者スイマー～	学んだことを振り返る
3	/	演習	障がい者スポーツの意義と理念について説明できる	学んだことを振り返る
4	/	演習	障がいの理解とスポーツ: 身体障害 ウイニングパス を体験する	学んだことを振り返る
5	/	演習	障がいに応じたスポーツの工夫・実施ができる(1)	学んだことを振り返る
6	/	演習	障がいに応じたスポーツの工夫・実施ができる(2)	学んだことを振り返る
7	/	演習	障がい者との交流をする	学んだことを振り返る
8	/	演習	障がい者の理解とスポーツ: 視覚障害	学んだことを振り返る
9	/	演習	安全管理ができる	学んだことを振り返る
10	/	演習	全国障がい者スポーツ大会の概要が説明できる	学んだことを振り返る
11	/	演習	障がいの理解とスポーツ: 精神障害 バレーボール を体験する	学んだことを振り返る
12	/	演習	障がいの理解とスポーツ: 脳性麻痺 ポッチャ を体験する	学んだことを振り返る
13	/	演習	障がい者スポーツ指導者制度について説明できる	学んだことを振り返る
14	/	試験	定期試験	
15	/	演習	試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	キャンプインストラクター講座 (Camp Instructor)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宮城県キャンプ協会
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	集中
学科・コース	スポーツ科学科						
教員の略歴	宮城県キャンプ協会						
授業の学習内容	「キャンプインストラクター」養成講習会での講習での学習内容に基づき、キャンプの特性、キャンプの対象、キャンプの指導、キャンプの安全についての理論が説明できる。また、キャンプの安全、キャンプの生活技術、さまざまなアクティビティーを実践できる。						
到達目標	キャンプの良さを説明できる。グループカウンセラーの役割を説明できる キャンプインストラクターは、キャンプでの活動を指導できる能力を持った指導者である。小集団の生活を指導する基礎的な知識、技術、考え方を習得していると認定される者に付与されるがその資格が取得できる						
評価方法と基準	授業内評価、受講、筆記・実技テストを養成講習会に合わせて評価を行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	キャンプの特性について説明できる	学習したことを振り返る
2	/	講義	キャンプの対象について説明できる①	学習したことを振り返る
3	/	講義	キャンプの対象について説明できる②	学習したことを振り返る
4	/	講義	キャンプの指導について説明できる①	学習したことを振り返る
5	/	講義	キャンプの指導について説明できる②	学習したことを振り返る
6	/	講義	キャンプの安全について説明できる①	学習したことを振り返る
7	/	講義	キャンプの安全について説明できる②	学習したことを振り返る
8	/	演習	キャンプの安全について実践できる	学習したことを振り返る
9	/	演習	キャンプの生活技術を実践できる①	学習したことを振り返る
10	/	演習	キャンプの生活技術を実践できる②	学習したことを振り返る
11	/	演習	キャンプの生活技術を実践できる③	学習したことを振り返る
12	/	演習	キャンプ活動でのさまざまなアクティビティーを実践できる①	学習したことを振り返る
13	/	演習	キャンプ活動でのさまざまなアクティビティーを実践できる②	学習したことを振り返る
14	/	演習	キャンプ活動でのさまざまなアクティビティーを実践できる③	学習したことを振り返る
15	/	試験	試験	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
キャンプ指導者入門				



科目名 (英)	卒業制作 (graduate study)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渡邊友朗
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	通年 月曜1限
教員の略歴	2006年4月～20017年12月までフィットネスクラブに所属 仙台医健・スポーツ&こども専門学校専任教員						
授業の学習内容	2年間で学習した内容について、個人やグループでテーマを設定し、課題に取り組む。						
到達目標	①グループで目標を立てられる ②グループで計画を立てられる ③結果についてまとめることができる ④パワーポイントの作成ができる ⑤プレゼンテーションができる						
評価方法と基準	1)授業内評価50% 2)作成したパワーポイント25% 3)プレゼンテーション25%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	目標を立てられる	
2	/	演習	計画を立てられる	
3	/	演習	活動について実施できる	
4	/	演習	活動について実施できる	
5	/	演習	活動について実施できる	
6	/	演習	活動について実施できる	
7	/	演習	活動について実施できる	
8	/	演習	活動について実施できる	
9	/	演習	活動について実施できる	
10	/	演習	活動について実施できる	
11	/	演習	活動について実施できる	
12	/	演習	活動について実施できる	
13	/	演習	活動について実施できる	
14	/	演習	活動について実施できる	
15	/	演習	活動について実施できる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	卒業制作 (graduate study)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渡邊友朗
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	通年 木曜3限
教員の略歴	2006年4月～20017年12月までフィットネスクラブに所属 仙台医健・スポーツ&こども専門学校専任教員						
授業の学習内容	2年間で学習した内容について、個人やグループでテーマを設定し、課題に取り組む。						
到達目標	①グループで目標を立てられる ②グループで計画を立てられる ③結果についてまとめることができる ④パワーポイントの作成ができる ⑤プレゼンテーションができる						
評価方法と基準	1)授業内評価50% 2)作成したパワーポイント25% 3)プレゼンテーション25%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
16	/	演習	活動について実施できる	
17	/	演習	活動について実施できる	
18	/	演習	活動について実施できる	
19	/	演習	活動について実施できる	
20	/	演習	活動について実施できる	
21	/	演習	活動について実施できる	
22	/	演習	活動について実施できる	
23	/	演習	活動について実施できる	
24	/	演習	活動について実施できる	
25	/	演習	活動について実施できる	
26	/	演習	活動について実施できる	
27	/	演習	活動について実施できる	
28	/	演習	活動について実施できる	
29	/	演習	活動について実施できる	
30	/	演習	活動について実施できる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	卒業制作 (graduate study)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渡邊友朗
学科・コース	スポーツ科学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 (6)	開講区分 曜日・時限	通年 月曜3限
教員の略歴	2006年4月～20017年12月までフィットネスクラブに所属 仙台医健・スポーツ&こども専門学校専任教員						
授業の学習内容	2年間で学習した内容について、個人やグループでテーマを設定し、課題に取り組む。						
到達目標	①グループで目標を立てられる ②グループで計画を立てられる ③結果についてまとめることができる ④パワーポイントの作成ができる ⑤プレゼンテーションができる						
評価方法と基準	1)授業内評価50% 2)作成したパワーポイント25% 3)プレゼンテーション25%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
31	/	演習	活動について実施できる	
32	/	演習	活動について実施できる	
33	/	演習	活動について実施できる	
34	/	演習	活動について実施できる	
35	/	演習	活動について実施できる	
36	/	演習	活動について実施できる	
37	/	演習	結果をまとめられる	
38	/	演習	結果をまとめられる	
39	/	演習	パワーポイントが作成できる	
40	/	演習	パワーポイントが作成できる	
41	/	演習	パワーポイントが作成できる	
42	/	演習	パワーポイントが作成できる	
43	/	演習	パワーポイントが作成できる	
44	/	演習	プレゼンテーションできる	
45	/	演習	プレゼンテーションできる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				